

食×スポーツ

JA全農いわては、スポーツを頑張る全ての人を応援しています。
 12月2日(木)にJAいわて花巻と合同で、岩手県の高校サッカー・ラグビーの全国大会出場校に対して全国大会での活躍を期待して支援金と県産食材を贈呈しました。
 切っても切り離せない関係にある「食」と「スポーツ」。
 スポーツに打ち込む学生へ、岩手県産の食材でエールを送ります。



岩手県立黒沢尻北高等学校ラグビー部

「第101回全国高校ラグビーフットボール大会」に東北ブロック代表として出場する岩手県立黒沢尻北高校ラグビー部にJAいわて花巻から北上産米「ひとめぼれ」60kg、JA全農いわてから県産豚肉1頭分を贈呈しました。黒沢尻北高校ラグビー部 粕加屋 完汰主将は「たくさんの方々から支えられていることに感謝し、いただいたお肉とお米を食べてさらに体を大きくしたい。今までの練習で培った力を存分に発揮して目標である花園での正月越えを達成したい」と全国大会への意気込みを語りました。



専修大学北上高等学校男女サッカー部

「第100回全国高校サッカー選手権大会」・「第30回全日本高校女子サッカー選手権大会」に岩手県代表として出場する専修大学北上高校男子サッカー部、女子サッカー部それぞれに、JAいわて花巻から北上産米「ひとめぼれ」60kg、JA全農いわてから岩手県産豚肉1頭分を贈呈しました。男子サッカー部 吉武 皇雅主将は「専北らしいパスサッカーをして目標である全国制覇を成し遂げたい」、女子サッカー部 及川 純奈主将は「自分たちのサッカーをして、目標としてきた全国ベスト4を達成できるように頑張ってきます」とそれぞれの意気込みを語りました。



新春ごあいさつ



運営委員会 会長
 小野 寺 敬 作



あけましておめでとうございます。謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
 JAいわてグループの会員JA農家組合員役員ならびにご家族の皆さま方におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中ではあります、すが、それぞれお揃いのお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。
 昨年を振り返ると、昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出制限や催事イベント等の中止が相次ぎ、全国的に経済活動が停滞しました。農業分野においても、需要減退にともなう国内農畜産物価格低迷や労働力の不足など、様々な影響が出た1年でした。本会といたしましては、生産基盤強化に向けた様々な対策やインターネット販売の拡充などの販売促進をすすめることで、農家組合員の皆様の営農継続をサポートしてまいりました。
 また昨年4月には、生産者と消費者の双方向けに、「より「層」純情産地いわて」を拡大する目的で、「つなげる」「ひろげる」「根を張る」の3つを柱としたブランドプロミスと、県産農畜産物をモチーフにした「まえむき」に「ひとめぼれ」をモチーフとした「新ロゴ」を発表し、「新」純情産地いわてをスタートさせました。
 さて、国内の農業JAを取り巻く情勢を見ますと、生産力向上と持続性の両立による農林水産業の実現のため、令和3年5月に政府が「みどりの食糧システム戦略」を策定しました。JAいわてグループとしても持続可能な食糧農業基盤の確立に向けて、着実に取

り組みを展開していく必要があります。
 しかし、足元をみまますと農業従事者の減少や高齢化、担い手不足等による廃業や離農が拡大し、生産基盤の縮小がすすんでいます。またJAにおいては、超低金利等による信用事業取支の悪化など大変厳しい状況となっており、営農経済事業改善にかかる期待がより高まっています。
 このように国内農業やJAを取り巻く環境が大きな転換期を迎えている中、新たな中期3か年計画のスタートとなる本年は、昨年12月3日に開催された「第46回JA岩手県大会」の決議を踏まえ、「持続可能な食糧農業基盤の確立」の実現に向けて、「マーケットイン」にもとづく生産・販売事業の強化や、農家手取り最大化に向けた実践メニュー提案と、10年後を見据えた長期的視点に立ち、JA経済基盤の強化をおこなうため各連合会と協力のもと支援を拡充してまいります。
 また、「新」純情産地いわてが生産者消費者双方からより「層」支持されることで、将来にわたり県内農家組合員が安心して営農活動が継続できる生産基盤を確立できるよう、引き続き職員「丸」となり取り組んでまいります。
 新しい年を迎え、本年も皆様方の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



県本部長
 高橋 司



新年明けましておめでとうございます。令和4年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。
 令和2年から続く新型コロナウイルス感染症は、昨年終盤ようやく感染者が減少する状況となりましたが、年間をつうじて消費の低迷や展示会等の中止により、本会事業も大きな影響を受けた1年となりました。また会員JA、農家組合員の皆様におかれましても、多大なるご苦労があったことと思います。
 このような情勢の中、本会においては今次3か年計画の最終年として、①純情産地いわての生産基盤強化、②県産農畜産物の販売力強化、③生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減の重点施策に取り組みるとともに、5年後・10年後を見据えた事業プランを実践してまいりました。
 次期3か年計画(令和4～6年度)の1年目となる本年は、長期的視点に立ち第46回JA岩手県大会で決議された持続的な食糧・農業基盤を確立するため、次の施策を中心に取り組みをすすめてまいります。
 ①生産拡大支援事業による生産基盤強化、②マーケットインによる生産振興や将来的な作付けビジョンにもとづく産地づくり、③直接販売の拡大やニーズに対応した販売方法による販売力強化、④生産資材コスト低減対策にむかえて生産者手取り最大化に向けた農業ICTの

実証と実装支援等を講ずることで農家組合員の皆様が効果を実感できる施策を実施してまいります。
 また、JA経済事業強化への対応についてはJA事業分量の拡大を最大の支援策と捉え、未利用・低利用農家への推進やJA事業の効率化支援を中心に会員JAとともに取り組んでまいります。
 本会は、岩手の農業の発展と農家組合員の所得増大のため、JA組合員の皆様の声と真摯に向き合いながら、皆様の期待にこたえる「なくてはならない全農」であり続けてまいります。
 本年も引き続き皆様のより「層」のご支援ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



2021

いわて純情むすめ

ハーフタイム

「2021いわて純情むすめ」として活動を始めてから早くも半年が経ち、初めてのことに戸惑っていた彼女たちも、いつしか活動に対して自分の想いをもつようになりました。折り返しを迎えた今、これまでの活動を振り返り感じたこと、また残り半年に向けた抱負を語ってもらいました。



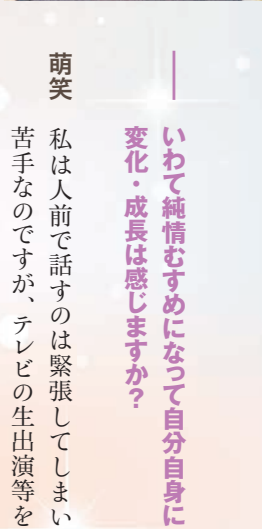
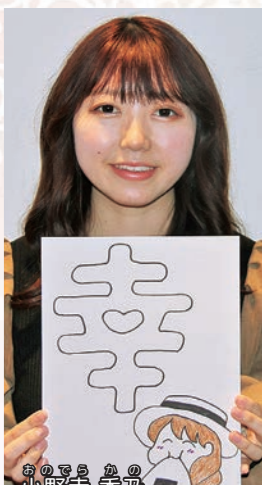
印象に残っている仕事は何ですか？

彩絵 私が一番印象的だった仕事は、「岩手県産ピーマンと夏野菜の揚げ焼きカレー」PRのための岩手県知事表敬訪問です。初めて一人での活動でとても緊張したのですが、岩手県とJAとハウス食品という協力体制で岩手の食が動いていることを目の当たりにし、それぞれ分野が異なる者同士が連携することでひとつの大きなものを作り上げていくことができるということを学びました。この経験から、独りよがりにならずチームプレーがチームにとっても自分にとっても良い方向へ導いてくれると思いました。

香乃 やつぱり五人だと安心感があつたら、一人になると緊張するよね(笑) うんうん

一同 私は新米の販売促進活動ですね。コロナ禍での活動でも実際に消費者の方の声を聴くことができ、とても有意義な活動でした。私自身も人と話すことや接客が好きで、自分の強みを生かすことができたかなと思います。また、直前にラジオ出演をしてから店頭に立った時は、ラジオを聴いて来てくださった方もいて、うれしくて心が温かくなりました。

香乃 悠佳ちゃんとは大船渡の販促と一緒に



いわて純情むすめになって自分自身に 変化・成長は感じますか？

萌笑 私は人前で話すのは緊張してしまい苦手なのですが、テレビの生出演等とおして以前に比べて落ち着いて取り組むことができるようになったように感じます。今までは困ったときに「一人でなんとかしなきゃ」と考えていたのですが、周りの人が助けてくれることが増え、困ったことがあつたら頼ってもらえるのかなと思えるようになってきました。

香乃 私はテレビなどで急に質問されたときに、素早く自分の言葉で答えられるように日頃から知識や語彙力を身につけるように意識しました。

彩絵 私も活動をおして農畜産物に関する正しい知識を得たことで、販促活動などでお客様に聞かれたらすぐ反応できるように、前もって販売する農畜産物のことを調べてから業務に臨むようになりましたね。

花咲 私は、いわて純情むすめの名前に恥じない行動をしようという心がけるようになりまし。純情むすめの活動をしているときはもちろん、普段学校で過ごしているときなども、言葉遣いや行動などに気を付けて生活しようと思えました。

悠佳 私が一番変化を感じるの、買い物をするときですね。食材の産地を気にしてみるようになり、生産者の方の気持ちを想像しながら買物をするようになりまし。また活動をおして、岩手県産の農畜産物をもっとたくさんの方々に知って食べて頂きたいという気持ちが強くなったように感じます。

後半戦に向けての抱負・意気込みは？

香乃 前半戦は私とほかのメンバーと2人での活動が多く、それぞれのメンバーとも交流がはかれたことも嬉しかったです。さらに「岩手のお米・野菜・お肉ですごい！美味しい！」と感じた半年間でした。後半戦も人として成長しながら、岩手の農畜産物の魅力を笑顔と元気とともに届けます！

彩絵 前半戦の活動では思いどおりに出来なかつたことや反省点がたくさんあつたので、後半戦ではその思いを原動力として、誠意を持った姿勢で活動していきたいです。多くの方々に支えられて活動できることへの感謝を忘れず、これからも精進していきます。

花咲 後半も一つ一つのお仕事を全力で取り組みたいです。

萌笑 初めてのことに挑戦する機会が多く失敗してしまうこともありましたが、関わってくださつたすべての方のおかげで笑顔で活動することができました。私たちがいわて純情むすめ自身が楽しんで活動することで、より岩手県産農畜産物の魅力を消費者の皆様にお伝えできると思います。どんな時も「純情スマイル」を絶やさず、前半に皆様からいただいた笑顔、後半は私が何倍にもしてお返しできるような精一杯頑張ります。

悠佳 繁忙期となる秋が過ぎ、コロナのこともあり、あとどれくらい活動ができるのかなと、少し寂しく思うときもありましたが、まだ折り返し地点ですし、もっともつとたくさんの方に活動に参加して、一人でも多くの方に岩手の農畜産物の素晴らしさを伝えていきたいです。

さらに県産農畜産物をPRするためには、どのようなことが必要だと思いますか？

香乃 私はSNSなど情報媒体の活用を徹底することが必要だと思います。私たちは今年、特にインスタグラムに力を入れてきましたが、今後は動画サイトのYouTubeやツイッターなどで広げていくのも良いのではないかなと思います。岩手の農畜産物が日本国内だけでなく、世界へ羽ばたく良いきっかけになると思います。

彩絵 私は子どもたちや若い世代に向けた情報発信が必要だと思います。給食の時間や授業の中で、食育の一環として県産農畜産物を楽しく知ってもらう活動をより一層実施していくことで、子どもたちに地域の食べ物に関心を持ってもらえれば、そこから親世代へも県産農畜産物のことが拡散されていくと思います。食卓での話題となることで、県産農畜産物のPR効果を最大限に発揮できると思います。

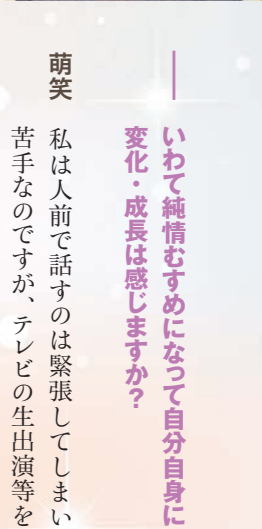
萌笑 私はインスタグラムをより定期的に投稿できないかと思っています。岩手の農畜産物についてまとめたものを動画にして投稿することで、あまり馴染みのない若い世代が知るきっかけになると思います。

花咲 私は萌笑ちゃんの話聞いて、みの

いわて純情むすめとして新たにチャレンジしたいこと・やってみたいことなどはありますか？

香乃 やつぱり生産者さんとの接触が少ないのでゆつくり生産者さんとお話しする機会を設けていただけるとうれしです。「クララ」で生産者の方々へ取材(インタビュー)をしたものを掲載することで、私たちが頑張っている姿も発信できますし、生産者の方々のリアルな声を届けられるので、私たち自身もその記事を見た

悠佳 私は、このご時世ではなかなか難しいですが、やはり店頭販売などで直接見て食べて頂くのが一番大切なのかなと思います。また、生産者の方々の顔が見えると安心感や購買意欲につながると思います。岩手県の人々の優しさや丁寧さが写真から伝わってきますし、機械的に作られていないんだなと思える気がします。



萌笑 私は「天候被害りんご販売促進会」です。「GO!GO!いわて」出演メンバーの皆様と一緒に、天候被害を受けたりんごの販売促進活動をクロステラスで行いました。お客様に味の説明をしたり、どういのが好きかを聞いて一緒に選んだりしました。「頑張つてね！」などの優しい言葉をかけてくれる方もいて活動をより頑張ろうと思えました。

花咲 私は認定式です。プロの方にメイクをしていただいて、たくさんの方に注目されインタビューしていただき、一生に一度の経験だつたと思います。これから純情むすめとして、しっかりと頑張ろうと思いました。

香乃 私は「一関ふるさと便」と「平泉産業まつり」に純情むすめとして参加できたのはとてもありがたいが、これからは地元を大事にしたいと思えましたね。あと、印象に残つた仕事といえばテレビ関係ですね。生放送ということですごくドタバタしてました。ハンバーグの名前を間違えたときは本当にあせりました(笑)

一同 方々も、地元のものを取りやすくなると思います。クララもいよいよ毎月小さくてもいいので純情むすめのコーナーを作つてほしいです！

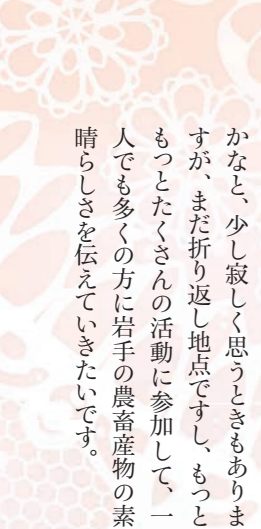
萌笑 私は農業体験に挑戦できないかなーと思つています。その光景をYouTubeへ動画投稿して、より多くの人々にいわて純情むすめの存在を知ってもらいたいです。

彩絵 私は子どもたちに向けた食育活動を行つてみたいです。おいしく楽しく食べる経験をとおして県産農畜産物に関心や愛着を抱くような活動に挑戦したいです。

萌笑 私は岩手県産の農畜産物の魅力を国内だけでなく海外へ発信することで、実際に現地を訪れてのPRは難しいですが、インスタグラムの投稿に英語のハッシュタグをつけたり、簡単な英訳をつけてみると、海外の人の目にもつきやすいと思います。

悠佳 私は、ひとつの企画として楽しそうだなと思うのは、カフェや食堂のような感じで、純情むすめたちが県産農畜産物を料理し、お客様へ届ける活動です。その他には、商品開発であったり、岩手県の飲食店とコラボさせていたたりしても、話題性があつて面白そうだなと思います。

一同 楽しそう(笑)



安全・安心の養豚経営へ

令和3年11月22日(月)

令和3年度岩手県農協養豚経営者連絡協議会委員会

11月22日(月)に盛岡市で岩手県農協養豚経営者連絡協議会による委員会が開催されました。県内生産者・農協・JA全農いわておよび関係会社が出席し、令和2年度肉豚出荷成績優秀者の表彰式を行いました。

この研修会では、系統銘柄豚の確立ならびに生産意欲の向上を目的に、年間の肉豚出荷成績について「出荷頭数平準率部門賞」※1「肉質上物率部門賞」※2「ストライク率部門賞」※3の年間優秀者を表彰しています。今回は年間肉豚出荷頭数ごとに合計9名の生産者や農場がそれぞれの部門賞を受賞しました。

- ※1. 出荷頭数平準率部門賞：年間を通じ、定時・定量の肉豚出荷を評価。
- ※2. 肉質上物率部門賞：年間出荷頭数のうち、「上」以上に格付けされた頭数比率を評価。
- ※3. ストライク率部門賞：年間出荷頭数のうち、枝肉重量が67kg～80kgの範囲にある頭数比率を評価。

令和2年度 肉豚出荷成績優良者

部門賞	1位
【部門別成績 肉豚出荷頭数年間1万頭以上】	
出荷頭数平準率部門賞	農事組合法人 八幡平ファーム
肉質上物率部門賞	北日本JA畜産株式会社 花巻肥育農場
ストライク率部門賞	農事組合法人 ジョイフルファーム八幡平
【部門別成績 肉豚出荷頭数年間2,000頭以上1万頭未満】	
出荷頭数平準率部門賞	有限会社 アベファーム
肉質上物率部門賞	有限会社 七木田ファーム
ストライク率部門賞	株式会社 のだファーム 第一肥育農場
【部門別成績 肉豚出荷頭数年間2,000頭未満】	
出荷頭数平準率部門賞	武田養豚場
肉質上物率部門賞	杉浦養豚場
ストライク率部門賞	永根ファーム



「肉豚出荷頭数1万頭以上」部門賞受賞者(上段3名)



「肉豚出荷頭数2000頭以上1万頭未満」部門賞受賞者(上段3名)



「肉豚出荷頭数2000頭未満」部門賞受賞者(上段3名)

お笑いコンビ「天津」木村卓寛氏「いわて牛応援団長」就任

令和3年11月26日(金)

JA全農いわては、岩手が誇る日本最高級のブランド牛『いわて牛』を県内外に広く紹介するため、いわて暮らしアンバサダーであるお笑いコンビ「天津」の木村卓寛(きむらたくひろ)氏を「いわて牛応援団長」に任命し、令和3年11月26日(金)に岩手産業会館(サンビル)において就任式をおこないました。

高橋司県本部長より任命状を手渡された木村氏は『岩手県に移住し、「いわて牛」の美味しさ素晴らしさを実感した。生産者が愛情を持って育てた「いわて牛」を県内外に広めていきたい。SNSなどを通して日頃から発信をしていく」と意気込みを語りました。

12月4日(土)からは、木村氏が出演する「いわて牛」のCMを岩手県内で放送しており、JA全農いわてYouTubeでも視聴できます。



高橋司県本部長より任命状を手渡されました

社会貢献活動を支援

令和3年12月10日(金)

NHK歳末たすけあい募金

JA全農いわては、「NHK歳末たすけあい募金」への寄付を目的に11月1日(月)～11月30日(火)までの1ヶ月間、募金活動を行いました。県内各事業所や関連会社、本会直営店「みのるダイニング」の店頭などに募金箱を設置し、職員や店舗への来店客を対象に募金を呼びかけました。「NHK歳末たすけあい募金」への寄付は、JA全農が毎年取り組んでいる社会貢献活動です。全国の都府県本部が募金活動を行いNHK各局へ寄付をすることで、日本国内で支援を必要とする方々への支援活動の一助となることを目的としています。

集まった募金は寄付金として、12月10日(金)にJA全農いわて林伸彦副本部長からNHK盛岡放送局田中健太郎局長へ手渡されました。



林副本部長から田中局長へ寄付金を贈呈しました



NHK放送局を通じ、共同募金会へ寄付をしています

「寒じめほうれんそう」販売開始

令和3年11月22日(月)

純情ショップ「寒じめほうれんそう」販売会

11月22日(月)盛岡市大通のサンビル1Fにある純情ショップで寒じめほうれんそうの販売会が行われました。

寒じめほうれんそうは、光による刺激から目を保護する網膜(黄斑部)色素を増加させるルテインが多く含まれており、「久慈地区」「八幡平地区」から出荷される寒じめほうれんそうのみが機能性食品となっております。

寒さが厳しい県北地方で3カ月以上かけてじっくりと栽培し、葉が縮み、甘みが強いのが特徴で、出荷基準を糖度8度以上と定めています。

販売会では、野菜応援隊のMonzlaSkasyells(もんずらすかしゅーるず)と生産者らが販売に参加し消費者にPRしました。素材の味が楽しめる「しゃぶしゃぶ」やサラダをおすすめしています。



販売会の様子



MonzlaSkasyellsのお二人

令和3年度農家手取り最大化プロジェクトセミナー

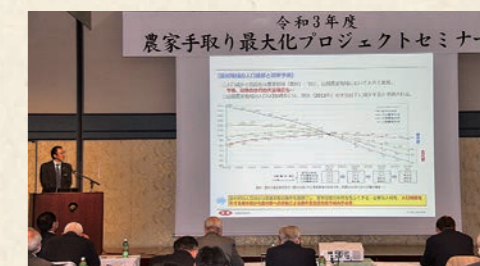
令和3年12月16日(木)

JA全農いわては、12月16日(木)、ホテルグランシェール花巻で「令和3年度農家手取り最大化プロジェクトセミナー」を開催しました。これまでJAと本会が連携して行ってきた、モデル経営体支援の取り組み成果を共有する場として、モデル経営体、JA、関係者60名が参加しました。

セミナーでは、JA全農から「JA全農と(株)JTBIによる労働力支援事業の取り組み」やAIによる解析で最適な栽培管理を提案する新しい栽培支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」を紹介。

JAいわて中央からZ-GIS導入とリモートセンシングの活用、高密度播種苗移植栽培による「労働費低減」など実践メニューの成果報告が行われました。

セミナーの後半ではJA全農いわて営農技術課による、「鉄コーティング種子ドローン湛水直播実証について」と「雑草対策に向けた取り組みについて」の研修講演が行われ、今後の農業経営に役立つセミナーになりました。



「JA全農と(株)JTBIによる労働力支援事業の取り組み」の紹介



営農技術課 スマート農業の取り組み

② ICT 捕獲システムによる害獣捕獲の実証

今年度、胆沢猟友会の協力のもとイノシシ捕獲用の箱罠および ICT 捕獲システムを設置しました。同システムはイノシシが罠に近づいた際にスマートフォンへ通知され、ライブ映像を見ながら遠隔操作で罠の扉を落とす機器です。確実な捕獲と罠見回りにかかる労力の軽減効果を期待し、現在運用中です。



ICT捕獲システム(カメラ+通信機器+ 通知とライブ映像 罠作動装置) スマートフォンで遠隔操作

(3) ドローンを用いた花粉散布実証

今年度、全国的に例の少ないドローン(使用機体: DJI MG-1SA)を用いたリンゴの花粉散布を県内で実証しました。その結果、丁寧にふるいを掛けた花粉でも、ドローンのフィルターに詰まり、散布ノズルの吐出不良を起こすことが分かりました。

散布液調製作業の簡便化や適切な散布日(開花状況や天候)の見極め、散布時の吐出不良解消がドローンによる花粉散布の課題として明らかになりました。



MG-1SAによるリンゴ花粉散布 リンゴ花粉溶液と散布後のフィルター

(4) 小型多機能ロボット「DONKEY (ドンキー)」

「DONKEY (ドンキー)」には作業者を認識して後ろを自動追従する機能があり、収穫物運搬などで省力化が期待できます。

今年度、ハウス栽培ミニトマトの収穫時に活用できるか実証した結果、ドンキーを使うためには通路の幅や方向転換のためのスペースが必要だということが分かりました。



小型多機能ロボットDONKEY

(5) 電動リモコン作業機「smamo (スマモ)」

「smamo (スマモ)」は走行ユニットに様々なアタッチメントを取り付けることができる電動作業機です。水田畦畔用のアタッチメントを使用することで法面の草刈りが可能です。

今年度は県内2カ所で実演会を開催しました。実演会では降雨後に関わらず、太い茎の雑草を刈れていました。なお、傾斜が急な法面での実演で石や太い枝により機体の走行に支障の出る場面があったため、傾斜刈りの際は事前に障害物を取り除く必要があります。



電動リモコン作業機smamo&畦畔刈アタッチ 写真: 株式会社佐々木コーポレーション資料「電動リモコン作業機【スマモ】smamo」より引用

3. 営農情報発信の取組み

実証した新たな技術等は、研修会の開催や各地域の座談会等で提供していく予定です。また、令和2年度より運用している公式LINEアカウント「JA全農いわて営農情報」や、YouTubeチャンネル「【JA全農いわて公式】Let's TRY!! いわて営農チャンネル」でもより多くの生産者へ広く発信しています。



LINE 「JA全農いわて営農情報」



YouTube 【JA全農いわて公式】 Let's TRY!! いわて営農チャンネル

1. はじめに

営農技術課では、農家手取り最大化の実現を目指した取り組みや、農業ICTを活用した「スマート農業」の現場実装を促進させるための各種実証を行っています。

今回は、令和3年度に取り組んだ実証技術について紹介します。

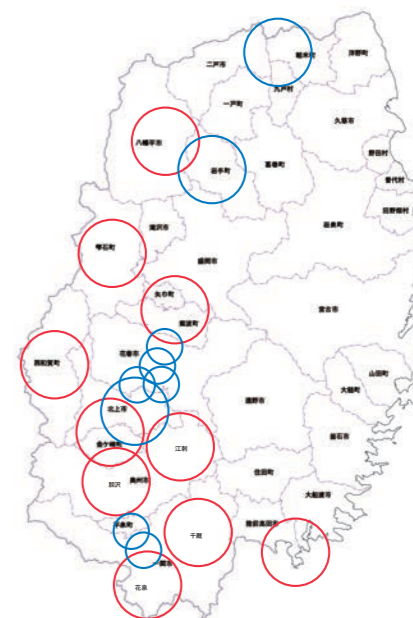
2. スマート農業実証技術

(1) V-NeKHs リアルタイム配信サービス

V-NeKHs リアルタイム配信サービスとは、データ上の「仮想基地局」から得られる位置情報を、自動操舵農機の補正データとして複数の利用者が共有でき、かつ低コストで利用できる新しい技術です。

令和3年4月から、県内10カ所の地点にV-NeKHs仮想基地局を設置し、補正データの配信サービスを開始しました。V-NeKHsリアルタイム配信サービスを活用した自動操舵農機のデモ実演会や説明会を開催し、県内の推進をはかっています。

■ 仮想基地局の設置箇所と通信エリア範囲



赤: V-NeKHs仮想基地局エリア
青: GNSS基準局設置済エリア

■ 令和3年度自動操舵トラクタのデモ実演会



(2) ICT 機器を活用した鳥獣害対策

① 電気柵による作物防護・下草除草管理の実証

今年度は県内2カ所にて、イノシシ(水田)とシカ・カモシカ(りんご園場)からの作物防護のため、電気柵設置を行いました。また、電線への接触により電圧低下を招く柵下雑草への除草剤散布を行いました。

電気柵設置による作物防護の効果と除草剤散布による下草管理の作業時間削減効果が確認されました。



電気柵設置



トレイルカメラでカモシカの侵入防止を確認



園芸部
生産販売課
佐々木 仁

りんごの降雹による 果実被害

みんなの分教場

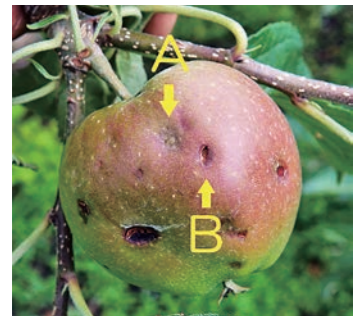


図1 きおう(7月6日、降雹22日後)

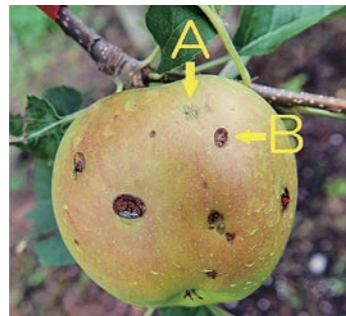


図2 きおう(8月11日)

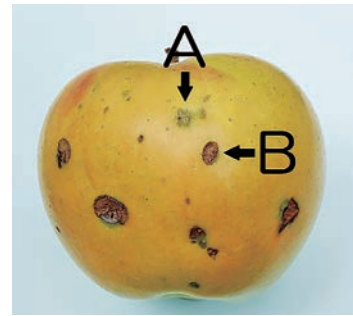


図3 きおう(9月2日、収穫期)

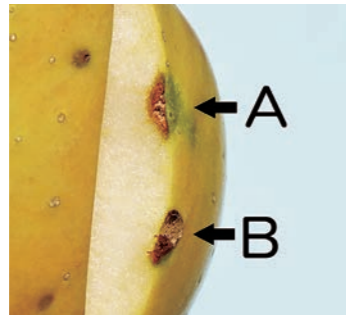


図4 きおう(9月2日、果実断面)



図5 ふじ(7月6日)



図6 ふじ(11月4日、収穫期断面)



図7 販促パンフレット



図8 小箱用リーフレット

1 はじめに

令和3年6月14日と15日に、花巻市と奥州市江刺区の一部地域で降雹がありました。果実の傷害や枝葉の裂傷など、園地によっては類を見ないほど大きな被害となり、5月の凍霜害と併せて果樹の生産者にとっては厳しい年となりました。

2 りんごの傷の程度と収穫時の状況

果実に生じる傷は雹の大きさや形、当たる強さによって千差万別です。電は突風を伴うことが多いので、上から斜め下に向かって降ります(真横の場合も)。今回のように幼果期であれば、果実は果梗を下にして上か横を向いていることが多いので、傷は果実の斜め上(収穫時は果実の下側になっている)から側面につきます。

傷の変化を経時的に観察すると(図1~3)、Aのように当たりが弱くて小さい傷は、浅いくぼみができるだけで収穫時まで変わらないように見えます。しかし、断面を見ると表皮の下には死んだ果肉組織がコルク化して残っています(図4A)。これに対して、当たりの強かったBの傷では表皮が裂けてその部分の表皮は失われ、同時に皮下の果肉から表

皮が再生して楕円形のサビとなります。最終的に傷はややくぼみまます(図4B)、稀に盛り上がることもあります。

電がかなり強く当たった場合(図5)は果肉が深くまで損傷するため、傷は修復されず果面がへこんでしま(図6)、いわゆる「エクボりんご」になります。今回はこのような通常販売に向かない果実も多く発生しましたが、見た目以外は正常化と変わらずおいしりんごです。本会では少しでも生産者の手取り確保になればと、各農協及び販売先と連携し「わけありりんご」として販売しています(図7、8)。



生産者を訪問し、営農ツールを活用しながら、推進を図っています

生産者と共に奮闘する
営農支援部の活動をレポート

TRY! 営農支援 レポート



地域農業の未来を見据えた 訪問先の選定!!



営農支援部
営農支援課
菊池 規

J A が出向く活動に取り組み上で、「訪問すべき担い手の明確化」は重要な作業です。直近1年2年の視点ではなく、「これから地域農業はどうなっていくのか」「J A としてどうしていきたいのか」といった、地域農業の未来を見据えた中長期的な視点から、担い手を選定する必要があります。J A 事業を継続的に拡大するための大きな土台です。今回は、J A おおふなどにおける「訪問すべき担い手の明確化」を紹介します。

TACの体制

J A おおふなどでは、専任TAC3名が管内農家121戸を訪問しています。TAC体制は、下記のとおりです。生産部会は16の組織で構成され、各部会会員および肥料未購入生産者などの447戸から今年度は121戸に絞って訪問活動をしています。次に訪問先の選定基準を紹介します。

TAC	エリア	農家戸数
1名	大船渡	35戸
1名	陸前高田	47戸
1名	住田町	39戸
合計		121戸

選定基準	ポイント
1. 地域農業の担い手となる生産者	他部門(米、園芸、畜産など)の各担当と、密な情報共有の上選定
2. 比較的生産規模が大きい生産者	
3. JAへの農産物出荷割合が高い生産者	JA未利用者を選定
4. JAへの農産物出荷があり肥料未購入生産者	
5. 稲作受託協議会構成員	受託者との関係構築を見据え選定
6. JAの生産部会員	-

訪問先の選定基準

J A おおふなどでは、下記6つの選定基準を設けています。部内において、各作物担当者との相談の上、意見を反映させています。「4」の基準においては、J A 未利用者を選定しています。肥料の系統外利用者もいることから、肥料未購入生産者に対し、大型規格や肥料農薬注文書、助成金のチラシ等を活用しながら推進を図っています。また、「5」の基準では、農作業受託が今後ますます増えていくことを考慮し、受託者とJ A の繋がりを構築していくため、稲作受託協議会構成員を訪問先として選定しています。



営農管理システム「Z-GIS」の操作研修をしている様子

訪問先選定のメリットと今後

TAC活動を進めていく上で、活動のベースとなる訪問先選定リストは、なくてはならないものです。平成28年度までは専任TAC制ではなかったため、「どの農家を訪問したか」どのくらいの頻度で顔を出しているのか」をJ A で把握できていませんでしたが、平成29年度以降、専任TAC制に移行してからは、訪問先をしっかりとらせることにより、各訪問先の目標訪問回数を設定できるようになりました。訪問頻度が高くなったことにより、TACの顔を覚えてもらえるとともに、担い手に対しJ A の積極性・存在感を示すことができている。

本会ではJ A おおふなどの地域農業の発展を念頭に置いた訪問活動を引き続きサポートしていきます。

レッツトライ クッキング

Let's try cooking orders 28

“酒のおつまみ”にぴったり!
お餅の生ハムロール



◇材料(2人分)

- 切り餅…2個
- 生ハム…4枚
- オリーブオイル…大さじ1
- バルサミコ酢、はちみつ…各小さじ1
- ブラックペッパー、塩…各少々
- ハーブ(飾り用)…少々

◇作り方

- ① 餅を適度な大きさに切る。
- ② ①に生ハムを巻く。
- ③ フライパンを中火にかけてオリーブオイルを入れ、焦げ目が付くまで②を両面焼く。
- ④ フライパンにバルサミコ酢とはちみつを入れ、餅とからめる。
- ⑤ ③を皿に移し、お好みにブラックペッパーや塩をかけ、ハーブを飾って完成。

料理監修

オーナー/佐々木朋美



紫波郡矢巾町又兵衛新田第7地割199
くすみアパートメント1F
TEL 019-681-7337
Mail tom1123tom@icloud.com
https://tom-creperie-deli.com



「純情産地いわて」から、よりすぐりの農畜産物を掲載しています。

オススメ商品盛りだくさん! 詳しくはQRコードから



<https://www.ja-town.com/shop/c/cB4/>

いわて純情セレクト



<https://www.ja-town.com/shop/c/c2101/>

いわて純情館



「いわて純情セレクト」はこちら



「いわて純情館」はこちら



【新しいわて】
いわて純情野菜 旬の詰め合わせBOX

【新しいわて】いわて純情野菜 旬の詰め合わせBOX

販売価格: ¥2,980 (税込)

【内容】寒じめほうれんそう(200g×2袋)・アスパラガス・長芋・人参(6本)・八幡平バイオレット(にんにく)

JA新しいわての野菜を5品目をお届けします。体を温めるお鍋やしゃぶしゃぶとしてオススメの商品です! 1月31日までの販売。毎週、土曜日に出荷予定。

越年蔵出し高糖度はるか【春香の恋】約2.5kg(9~12玉)

販売価格: ¥6,700 (税込)

大人気の岩手県生まれのりんご「はるか」を桜の咲く「春」まで楽しめるように、貯蔵性を高める加工をしたものが「春香の恋」です。

「プレミアム冬恋」と同様に糖度16度以上のものだけ選抜しております。

※「春香の恋」には蜜は入っていません。1月15日までの販売。1月15日から出荷予定。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は色々なことに「トライ」する1年にします。今年もよろしくお願いいたします! (清川)

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、 에스ペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかになるという願いが込められています。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<https://www.junjo.jp>

